

○議長 横尾 武志君

次に4番、萩原議員の一般質問を許します。萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

皆さん、こんにちは。4番、萩原です。今回は2回目の一般質問です。前回の一般質問では本当に緊張いたしました。今回は落ち着いて質問してまいりたいと思います。また、本日は傍聴席の皆さん、本当にありがとうございます。では、通告書に従いまして質問してまいります。

件名1、老人憩の家の見直しについて。

芦屋町には高齢者福祉施設の老人憩の家が3施設あります。各小学校区に整備され、芦屋小学校区に寿楽会館、東小校区に鶴松荘、山鹿小学校区に山鹿荘があり、地域の高齢者に対し教養の向上、レクリエーション等の活動の場、また老人の心身の健康増進を図ることが目的で、昭和47年から昭和52年にかけて建築されました。60歳以上の方が無料で利用でき、全ての施設に浴場が整備され、通称「老人風呂」と親しまれ、入浴目的で利用する人も多く、建設当時は年間延べ10万人以上が利用していましたが、近年は減少傾向が続いています。築40年が経過し、見直しのため6月議会で老人憩の家の基本構想策定業務委託費として385万円が計上されました。今年度は基本構想を策定し、令和2年度以降に基本計画、基本設計、実施設計。続いて令和4年度以降に施工を予定していますが、20年30年先を見据えた老人憩の家にしていくためには十分な住民の意向の把握が必要だと考えます。そこでお尋ねします。

要旨1、老人憩の家の利用状況についてお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

老人憩の家の利用状況につきまして、過去3カ年の状況を説明いたします。

数字は3施設の合計でございます。延べ利用者は、平成28年度が4万494人、平成29年度が3万8,414人、平成30年度が3万3,877人と減少しています。一日当たりの利用者にしますと、平成28年度が133人、平成29年度が126人、平成30年度が113人となっています。老人憩の家は60歳以上から利用できますので、利用率を見ても施設入所者等を含む本年3月の利用対象者は5,153人。平成30年度一日当たり平均利用者113人を利用対象者で除すると、約2.2%の利用率となります。続いて、平成29年2月に実施した老人憩の家を利用されている方へのアンケート結果に基づいて説明します。利用者の年齢層は70歳代が約50%、80歳代が約30%と、70歳以上の方の利用割合は約80%となっています。利用目的は、最も多いものが浴場の利用で約47%、次いで友人との交流の場としての利用が約28%、同好会や趣味活動・外出のきっかけが、それぞれ8%となっております。老人憩

令和元年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

の家の滞在時間は、約75%の方が2時間以内の利用でございます。また、老人憩の家には約40%が徒歩で訪れ、利用者の60%以上が週4回以上の利用、3年以上利用している方が70%を超えております。また、老人憩の家では同好会活動が行われており、3施設合わせてカラオケが4団体、編み物、将棋、太極拳が各1団体の合計7団体で、登録人数は全部で47人でございます。

以上が、老人憩の家の利用状況の概要でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ただいま御説明ありました中で、追加でお尋ねいたします。憩の家側が主催で、イベントの催し等はありますか。また、運動や体を動かしたりしている人はいますか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

現状、老人憩の家で自主事業というか福祉課のほうから出向いてやっているものは、健康相談を行っております。これが月1回、3施設等ございます。それから体を動かした事業につきましては、先ほど言いました、1つは太極拳は明らかに体を動かしてるんですけど、まあカラオケも含んで、体を動かすという意味合いでは5団体ほどがされているというところで、こちらからそれ以外に体を動かすような事業をやっていると、受託者のほうでやってるということはございません。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

施設管理費用と管理人さんは、どのような配置になっておりますか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

施設管理につきましては、修繕とか昨年はブロック塀の補修とかって、こういったちょっと臨時的なやつは除きまして、指定管理料ということで委託料の中で御説明しますと、28年度がおおむね2,400万、それから29年度が2,480万、約ですね。それから30年度が約2,680万ということで、30年度にふえた理由に関しましては重油の値上がりが主な要因でござ

令和元年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

います。それから管理人の状況につきましては、それぞれ各施設に男女1名ずつ合計2人掛ける3施設、1日6名勤務しております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

先ほど課長から、カラオケ等の団体が趣味の活動として利用しているというお話がありましたけれども、頻度はどの程度行っているのでしょうか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

活動状況につきましては、おおむね1週間に1回というのが基本というふうに伺っております。以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

要旨2、今年度の基本構想策定から基本計画策定までの流れについてお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

老人憩の家の見直しにつきましては、将来を見通して高齢者の福祉や健康増進のために必要な機能、整備する場所や整備数などの課題がございます。次に、町全体として将来の公共施設のあり方を示した公共施設等総合管理計画に基づき、建物の延べ床面積を減少すること、あるいは防災面を含めた安心安全施策等の関係を含めて検討することが求められていると考えております。これらのことを考慮し、本年度は基本構想として複数の整備パターンを作成し、建設費などを試算することを予定しております。そして令和2年度には、住民の皆さんにアンケートの結果及び基本構想における複数の整備パターンを示し、最終的に一案に絞っていく基本計画を作成するように考えております。以上が、基本構想から基本計画策定までの流れでございます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

令和元年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

ただいま課長からお話のありました公共施設等総合管理計画で、今後30年間の間に建築系公共施設の延べ床面積を25%削減する数値目標を芦屋町では設定しております。平成30年第1回定例会や6月議会でもその話は聞いておりますが、現在、老人憩の家は町内に3カ所あり、住民アンケートでも現在と同じ校区ごとに整備してほしいという希望がっております。既に老人憩の家はこの計画に含まれ、減らすことが決まっているのでしょうか。お尋ねします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

老人憩の家については現在何も計画決定しておりませんので、削減が決まっているものではないです。しかしながら公共施設等総合管理計画については、町の現状や課題、町の持続可能性を踏まえて将来の公共施設のあり方を示しており、整備等に関して所管する担当課それぞれが目標に向かって努力することが大事であると考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

先ほど計画までの流れをお伺いしましたが、ことし基本設計、実行設計に入り、複数パターンを建設費等を検討していくというお話でしたが、住民アンケートに漏れた方の意見もあるかと思えます。先ほど、住民の意向を聞く場というのは設けられるのか、またどのような形でされることをお考えかお尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

現在のところ、これっていつ決まってるものは全てございませんけど、現時点では、町民の意向につきましてはアンケートの実施、それから利用者の意向の把握、それから包括ケア推進委員会——うちの審議会、高齢者の福祉を検討する審議会がございます。この推進委員会等を活用してということで考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ただいま課長からアンケートの話が出ましたので。要旨3、老人憩の家についての住民の意向

令和元年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

を本年度の芦屋町高齢者福祉計画の基礎調査の住民アンケートで確認する予定になっておられると思いますが、その住民アンケートはどのようなアンケートなのでしょうか。お尋ねします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

おっしゃられるとおり今時点では、来年度に高齢者福祉計画、第8期の高齢者福祉計画をつくる必要がございますので、これに合わせて老人憩の家に関するアンケートを実施ということは予定しております。それから、そのときに65歳以下の方についてもお聞きしたいというふうを考えておまして、内容等についてはまだ現時点では決まっておりません。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ただいま課長から、住民アンケートを実施予定というお話をいただきました。そこでお尋ねしますが、課長は平成30年第1回定例会で、「アンケートの意向と実態は合わない」、「定着化に結びつかない」と答弁されておられます。その後、その要因の解明はできたのでしょうか。

それから、先ほど説明のあった住民アンケートで、憩の家の見直しに対する十分な住民の意向の把握はできるのでしょうか。担当課は平成29年2月に老人憩の家に関する意向を把握するために、50歳代、60～80歳代、施設利用者を対象とした住民アンケートを実施しています。このアンケートで、50歳代の人の82.7%が憩の家は必要と回答し、60～80歳代の方の82.4%の人が利用したことがないと回答しながらも、64.8%の方が憩の家は必要であると回答しています。しかしその後、平成30年の鶴松荘の利用者数は年間3,000人程度が減少し、他の施設も同様に減少しています。特に工事などはなかったようですが、その要因もあわせてお尋ねいたします。以上3点お尋ねします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

まず利用の、必要だが利用されていないというところが、30年の議会答弁のところで私でさせていただいたんですけども。その要因解明は済んだかということなんですけども、それにつきましては、要因解明は済んだということは思っておりませんので、そこら辺も含めて今度のアンケートの中に制度設計を考えていきたいというふうには考えております。

それから鶴松荘につきましては、特に3,000人減ったというところでございます。全体的

令和元年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

に含めてなんですけども、老人憩の家がずっと、いわゆる減少が続いてきたっていうのが、これは大前提として、老人憩の家の方の利用者っていうのは固定傾向にございます。固定している方が多いんですね。それで先ほど言いましたように70%以上が3年以上とか、そういった方です。それらの方が入所とか入院したりとかすれば、一度にぼんっと減っていきます。いわゆる延べ人数でしておりますので、例えば週に4日の方が1人50週とすれば、1人入院されたら200人マイナスになるというような状況になっておりますので、そういう理由が一つある。それと鶴松荘に限って言わせていただければ、鶴松荘のすぐ横には町営住宅っていうのがございまして、こちよっと建てかえの中で、住みかえとか進めておりまして、この住みかえによって町営住宅におられた、そこの近くの町営住宅におられた方が遠くの町営住宅に行かれた。その結果、利用されなくなったというようなところがあると思います。

それと、すみません。反問権なんですけど。もう1点、すみません。御確認させていただければと。

○議長 横尾 武志君

反問権は許しとらん。

○福祉課長 吉永 博幸君

御確認させていただきたい。

○議長 横尾 武志君

確認ね。どうぞ。

○議員 4番 萩原 洋子君

先ほどの質問に関して再度申し上げますと、説明の住民アンケートの憩の家の見直しに対する十分な意向の把握はきちんとできますかっていうお話しをしたんですが、今、課長が「やります」というお話だったかと思しますので、それでいいかと思います。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

老人憩の家住民アンケートで50歳代の方にアンケートを行っていますが、その理由をお尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

単純でございまして、今後利用する若い世代、現在の利用対象者だけでなく将来の利用対象者の意向も把握したいという考えから調査対象にしたものでございます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

老人憩の家住民アンケートで、50歳代のアンケート調査結果で104名の方が回答され、86名の方が憩の家は必要と答え、65名の方が入浴できる機能は必要と回答しています。自宅に風呂がある世代でも入浴施設は必要だと感じていることがわかります。しかし、町内の50歳代1,521名のうちの104名、6%の御意見です。統計上の信頼度や利用する若い世代の意見として根拠づけするにはやや少ないのではないかと感じます。アンケートの調査結果では、アンケート調査は1,200名と書いてありました。各年代のアンケート数が不明です。一体、何名の方にアンケートを依頼し、その回答率はどうだったかお尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

アンケートを送付した方々なんですけど、50歳代が300人、それから60歳代が300人、それから70歳代が300人、80歳代も300人ということで、各世代300人にアンケートを送付しております。それから個別の、いわゆる回収率っていうものは持っておりませんが、合計すれば50.3%ということで、半数の方から御返答をいただいております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ただいま、先ほど課長が、若い世代にもアンケートをとったというお話がありましたが、この老人憩の家は今40年が経過して見直しになっております。今後20年30年を踏まえた計画となるとすると、50歳だけでは、やや情報が不足するのではないかと思います。さらに若い世代の住民の方にもアンケートをしてはどうかと考えますが、いかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

現時点ではアンケートの対象というのは決めておりませんので、今の議員の御指摘を受けながら、ちょっと検討させていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

次にアンケートの回収率についてですが、若い世代の方は共働き世帯も多く、なかなかアンケート協力が難しいかもしれません。その理由として、老人憩の家の存在さえ知らない人がいるからです。突然アンケートが届いても現状が理解できず、アンケートに回答しづらいのではないのでしょうか。事前に憩の家の目的や見直しの必要性について説明はしておられますか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

29年2月に実施したアンケート調査におきましては、老人憩の家の目的、それから利用状況、そういったものは説明しながら、そしてその上でアンケートに答えていただいておりますので、認識していただくような努力はしたつもりでございます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ただいま課長は、現状等を説明してるというお話ですが。さらにお伺いですが、目的以外にどれくらいのランニングコストが必要なのか等ですね、かなり大きな多額の費用がかかっております。しかしながら、利用者数は伸びていないというのが現状です。将来利用する可能性のある若い世代の人たちにもかかわってくるものです。しかし、町の大切なお金が多く使われていることを考えれば、そのお金は有効に使っていただきたいと思います。何でもあればいいではなく、現状を理解し、町民の方には本当に必要かどうか、必要だと思うその理由を当アンケートにすることが重要だと考えますが、いかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

実際、ランニングコストにつきましては前回聞いておりませんでした。今の議員の御提案というのも非常に重要なことだと思いますので、そこを含めてアンケートを設計させていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

続きまして、アンケートに協力しやすい環境の整備も必要だと考えます。記入までしても、ポストに入れるのが面倒で提出期限が切れてしまったということはないでしょうか。地域福祉計画の福祉サービスの情報収集で、年齢が低くなるほどインターネットで検索する人がふえています。現在、水巻町ではインターネットを活用し、町のホームページに対するアンケートを実施しております。二重回答や個人情報の問題等もあると思いますが、今後インターネットアンケートの調査・研究をしていただき、アンケートに協力しやすい環境、また、コスト削減につなげることも必要だと考えますが、いかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

アンケートの対象、それから実施方法、内容等は、先ほどから申しておりますとおり、まだ決定しておりません。ただ、アンケートは匿名方式を想定しておりまして、インターネットの場合は課題もあるということ承知しておりまして、さまざまな状況を想定して検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

要旨4、利用者への聞き取りはどのように検討されていますか。お尋ねします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

利用者のアンケートなどについては過去何度かに実施しておりますが、次回の利用者の聞き取り等については具体的な方法を含めて現在、今検討しているところでございます。ただ、利用の、当事者の意見を聞かないということではできませんので、もうしばらく待っていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

自宅に風呂がない方や、風呂があっても、またぐことができず入れない方、さらにお風呂の掃除は転倒の危険性もあります。もしも自宅で入浴するようなことになると支援を要し、デイサービスやヘルパーの利用が必要になるかもしれません。そのために施設利用者の心身の状態も聞き取りしていただき、基本構想を立案する際の情報の一つにさせていただきたいと思います。

最後に、やはり芦屋町の老人憩の家の見直しの大きな課題は、入浴施設をどうするかだと考えます。そして、ほかのどのような機能があれば多くの皆さんが利用し、本来の憩の家の目的が達成できるかが重要です。さらに、若い世代の意見を聞くことも必要だと思います。隣接する水巻町の老人風呂は利用者減少で運営をやめたため、現在は町が入浴料の半額を負担し、町のバスでマリンテラスまで入浴に来ています。しかし、年間24回分の補助ですので定期的な入浴は難しいのが現状です。また、岡垣町も利用者減少のため、ことしの4月から日帰りの老人風呂をやめました。15歳以上の町内者は300円と有料ですが、町内に誰でも入れる入浴施設があるため、入浴する場所は確保できています。このような現状を知ると、芦屋町には無料で利用できる風呂が3カ所もあることは恵まれていることだと感じました。利用者の皆さんは現状の継続を希望している方も多いと思いますが、多額の費用がかかることも事実です。公共施設の延べ床面積25%の問題や既存の施設の活用、他町のような、入浴施設を複合施設の中に組み入れるなど、さまざまな方法があると思います。ぜひ、町民の意向の尊重と安定した運営、多くの方が利用したくなる憩の家の基本構想を立案していただきますよう申し上げます。先ほど最後と申し上げましたが、老人憩の家に対する町長の見解がございましたら、お願いいたします。

○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

きょう本日の萩原議員の一般質問が老人憩の家の件ということで、非常に御心配いただいておりますわけですが、先ほど来より、双方より答弁、回答等あったわけですが、今まさにどうするかということは今、入り口にかかっておりますので、貴重な御意見いただいておりますので、それを参考にしながら今後、論議を重ねていこうと思っております。今、大事なことを最後言われたのですが、まず最初にアンケートの1番最初にはですね、やはり風呂は要るのか要らないのかということは、まず第一であろうかと思っております。いろいろ近隣調査いたしましてもですね、ほとんどの自治体がもう昭和40年過ぎから始まっておりまして、そのときの時代趨勢というか全然変わっておりますので、そういうところはどんどん廃止しております。風呂もそのときは約60%か70%しかなかったのが、今ほとんどの家に風呂があるということですね、本当にお風呂は要るのか要らないのかということから、まず入らなければならないと私自身は思っております。

令和元年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

これで私の一般質問を終わります。

○議長 横尾 武志君

以上で、萩原議員の一般質問は終わりました。